

【成城学園 初等学校】が優れた理科教育を表彰する 「第12回理科教育賞」大賞を受賞

学校法人 成城学園初等学校（東京都世田谷区／校長 渡辺 共成）は、日産財団が主催する「2022年度日産財団理科教育助成 第12回理科教育賞」にて、大賞を受賞しました。2023年9月5日（火）成城学園にて贈呈式が行われ、表彰状と楯が贈呈されました。

「理科教育賞」は、日産財団が、科学的思考力をもった人材の育成を応援するため、財団からの助成を使用して優れた研究成果を出した教育機関に与えられる賞となります。

今回大賞となった本校の研究は、【「プロジェクト解決ハイブリッドカー」から新たな価値を創造できる子を育てる】をテーマに、昨年度の6年生が、これまで学んできた様々なエネルギーを力に変えるための方法を活用して、授業で実践した車づくりの活動をまとめたものです。

ハイブリットカーを通して、既存教科である理科との関係性が考慮された“STEAM教育”を実践している授業であることが大きく評価され、大賞を受賞する運びとなりました。



<8月4日に行われた理科教育賞贈呈式の様子>

【今回の活動内容について】

初等学校6年生の授業内で、これまで学んできた様々なエネルギーやエネルギーを力に変えるための方法を活用して、児童たちがチームで協力しあってハイブリッドカーを作る活動を行った。児童たちは、現代社会が抱えるエネルギー問題を話し合いながら、「センサー車」や「永遠に動く車」など、自分たちが考える理想の車についての案を出し合い、様々な材料を使って制作。制作後は完成した車の発表会を実施、自分たちが目指したことや苦労した点などを報告するプレゼンテーションを行い、実際に車を走らせた。



【活動の成果】

- ① 児童のエネルギーに対する考えの大幅な変容を見ることができた。
- ② チームで取り組むことで問いを創り、上手い出来ないこともチームで共有し振り返りをする中で、新たな方向性へ向かう力が児童についた。
- ③ 自分の意見を出したりチーム評価を受けたりする中で、他者の価値観を認める姿勢が身についた。

【財団による活動の評価点】

ハイブリッドカーを題材とした、既存教科である理科との関係性もしっかりと考慮されたSTEAM教育として評価する。時期をずらして実施するなどの未知の単元指導における配慮や、事前・事後のGoogleフォームでのアンケートによる成果の測定なども評価できる。意欲的な発展途上の実践と推察でき、今後の更なる展開に期待したい。

日産財団による「理科教育助成」について

未来を拓くイノベーションにつながる子供たちの能力開発支援を目的とし、募集内容は科学的思考能力の育成を目指す理科教育実践研究、創造性・問題解決力の育成を目指す先進的な科学教育実践研究です。新しい科学教育理念である“STEAM教育”について学校の先生方に理解を深めていただくための普及啓発活動もしています。